

コラム 防災ちょっとイイ話 ~取材者から頂いた防災のアイデア~

- ★地区で毎月集まれる機会（交流活動など）を設け、日頃から互いに声を掛け合える関係を作る
- ★交流活動は、子どもから大人まで参加できるように工夫し、皆で楽しむ（8月/納涼祭、11月/芋煮会、12月/餅つき大会など）
- ★交流活動の飲食提供は、担当者だけでなく、男女問わず得意な人に手伝ってもらうことで、炊き出し訓練も兼ねられる
- ★災害時の備えは、食事と排泄のことを考えるのが大切

- ★非常食の備蓄は、ローリングストック法*がお勧め
※普段利用している食品や飲料を少し多めに購入し、賞味期限の古いものから定期的（1ヵ月に1~2度）に飲食して、その分を買い足す備蓄法
- ★水や食料・日用品の備蓄の目安は、一人当たり最低3日分、出来れば7日分
- ★ランタンやヘッドランプは、手が塞がっていても明るさが確保できるのでお勧め（100円ショップなどでも購入できる）



女性の悩み（カウンセリング）相談

「女性の悩み相談」では、お子さんやご家族、ご夫婦に関すること、配偶者等からの暴力に関すること、自分の生き方や人間関係等、女性の様々な悩みや心配事について相談可能です。相談の費用は無料です。また、相談に関する秘密は固く守ります。

- 相談日程** 第1・第3金曜日 13時~17時
面接相談もしくは電話相談
- 相談会場** 久喜市役所（本庁舎）
- 相談時間** 1人50分
- 対象** 市内在住・在勤・在学の女性
- 相談員** 女性カウンセラー（臨床心理士）
- 申込方法** 相談は予約制です。電話または窓口で人権推進課（下記連絡先）までお申し込みください。



「女と男いきいきネットワーク久喜会員」を募集します！

私たちは久喜市内で活動する団体及び個人が、ゆるやかにつながり、互いに交流し、情報交換しながら、男女共同参画の推進に取り組んでいます。久喜市との共催で「男と女のつどい」や「女性議会」を開催したり、令和2年度は、久喜市役所1階ロビーで児童虐待防止に係る展示を行いました。皆様のご加入をお待ちしています。

申込み・問合せ
同団体会長 内海まで

電話/FAX
0480-21-8825



ネットワーク企画の展示

久喜市は、お互いを認め合える社会を築くため、「人間尊重・平和都市」を宣言しました

編集後記 「そよかぜ」は、市民ボランティアの編集員の方に企画・取材・編集していただいています。

東日本大震災から10年となる今年は、男女の視点から災害対策を考えてみました。取材に協力いただいた方々の見識やお知恵に感心するとともに、自分の住んでいる地域でも早々に環境を整える必要があると思いました。（岡安 一雄）

昨年亡くなったルース・ベイダー・ギンズバーグ米国最高裁判事。「判事9人の内何人が女性なら満足か」の問いにいつも「9人」と答えたそう。全員女性だと驚くが、全員男性でも疑問に思わない感覚を戒めねばと思った。（加藤 孝）

「女性の視点は日常生活者の視点です」
今回の取材を通して強く心に響いた言葉です。私は、日々、縁の下で力持ちとして家事を行っていますが、これからは、「我が家の防災リーダー」としての意識も高く持って、がんばろうと思いました。（菱沼 千恵子）

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」⇒10年前の東日本大震災や一昨年の避難勧告の記憶は、今は新型コロナ肺炎の陰に隠れています。しかし「災いは忘れたころにやってくる」⇒災害を想定し、常に防災を意識しておく必要があるということ。取材をしていて痛感しました。（杉原 範子）

そよかぜの編集員も募集します！

男女共同参画や情報紙づくりに関心のある皆さん、一緒に情報紙をつくってみませんか。詳しくは人権推進課までお問い合わせください。



男女共同参画情報紙「そよかぜ」のバックナンバーは、久喜市ホームページからご覧いただけます。

◆発行/久喜市総務部人権推進課

〒346-8501 久喜市下早見85-3 電話：0480-22-1111（内線2322・2325）FAX：0480-22-3319
メールアドレス：jinken@city.kuki.lg.jp この情報紙は66,000部作成し、1部あたりの単価は4.0円です。再生紙を使用しています。



4 ~ 性的指向や性的自認を理由とした偏見や差別をなくしましょう ~

久喜市 男女共同参画情報紙

そよかぜ

SOYOKAZE

第11号
2021年3月発行

東日本大震災から10年。令和元年の台風19号来襲時の避難では、多くの市民や市の職員も初めてのことで混乱しました。地震だけではなく水害への備えも必要だと意識した方は多いと思います。

円滑・安心安全な避難のためには、日頃から防災について対策を立てておくこと、弱い立場の人やさまざまな事情がある人への配慮、男女が互いに尊重し合うことが大切ではないでしょうか。

災害時こそ男女の助け合いが必要です

久喜市の備え（久喜市消防防災課に聞きました）

長期避難となったら

災害により長期の避難生活となった場合、避難者自身による活動班を編成する必要があります。班員は、「避難所開設マニュアル・運営マニュアル」を参考に、性別を固定することなく男女両方を配置するようお願いしています。

また、避難所では、更衣室やトイレ、乳児への授乳スペースなど、女性のプライバシーに配慮する必要があり、間仕切りなどの備品調達も計画しています。



防災備蓄倉庫に保管しているミルク、哺乳瓶

市の取り組み

- 避難所の防災備蓄倉庫を定期的に点検する他、令和元年台風19号災害の経験から、下記の見直しを行っています。
- 学校の校舎のカギを市でも管理
- 避難所に配置する職員を、従来の3名から5名に増員
- 早めの避難情報発令及び準備
- 職員や活動班員が着用するビブスを防災備蓄倉庫に配備



防災備蓄倉庫には水や食料、ビブスも

緊急一時避難

地震、洪水などの災害で自宅には身の危険がある場合、学校等の指定緊急避難場所へ避難できます。避難先では、名簿の記入をお願いしています。

一時避難する時は、次の持ち物を持参するとよいでしょう。

- ・飲み物
- ・食べ物
- ・常用薬
- ・貴重品
- ・着替え
- ・タオル・ティッシュ等



久喜市 防災ハザードマップ
詳細は、久喜市防災ハザードマップをご覧ください！

QRコード

公助

地域で備える！

自主防災組織



自治会



共助

地震、水害…
日頃の備えは
大丈夫ですか？

自助

水、食糧、
防災用品



心の準備



各自で備える！

次ページで、防災分野で活躍する久喜市民をご紹介します！

東6丁目自治会・自主防災会



地域の防災対策は、老若男女を問わず住民同士の協力が不可欠です。優れた防災組織として県知事の表彰を受けた、東6丁目自治会・自主防災会をご紹介します。

自主防災組織リーダー養成指導員



東日本大震災後、地域の自主防災組織や防災リーダーを育成するための制度が始まりました。埼玉県自主防災組織リーダー養成指導員のお二人に、男女共同参画の視点でお話を伺いました。

自主防災会の結成

東6丁目自治会地区は、昭和45年頃に大規模住宅分譲地ができ、現在は370世帯、830名が暮らしています。

地区内で発生した火災の経験や、頻発する地震から、「近隣住民による共助」の大切さを痛感し、平成3年から消防署の指導の下で初期消火訓練・救護訓練を始め、平成20年7月に「自主防災会」を結成しました。

安否確認旗と防災関連チラシ

大地震などの災害発生時、一目で世帯の安全確認が出来るよう、「安否確認旗」というものを各世帯で目立つ場所に掲げていただくようお願いしています。この旗は、他地区の防災会の取り組みから着想を得て、業者に作成してもらった旗布を、役員が手作りして仕上げました。また、住民に「防災関連チラシ」を定期的に配布して、旗の使い方や、防災の心得などを啓発しています。

防災避難者名簿

全住民の「防災避難者名簿」を作成し、2年ごとに更新しています。各自の状態や、もしもの時に誰が援護してくれるかなどを自己申告していただき、災害避難時に援助が必要な人を把握しています。この名簿は個人情報が含まれるため、自主防災会長や区長、民生委員、防災担当役員だけが所持しています。その他、地区をA・Bブロックに分け、役員を多くし、皆で協力したりカバーしたりしやすいように工夫しています。

こうした取り組みが評価され、優れた防災組織として、令和元年度に埼玉県知事賞を受賞しました。

自然な形の男女共同参画

もともと男性も女性も一緒にやってきたので、男女共同参画をあまり意識したことはありません。自然な形で実現しています。

長く続けるコツは、地域行事と防災訓練を兼ねるなど、楽しみながら「共助活動」をすることでしょうか。炊き出しなどでは女性だけでなく、男性もよく働いています。

会長を中心に、皆で相談しながら、より住みやすい街を作ろうと今後も協力しあっています。

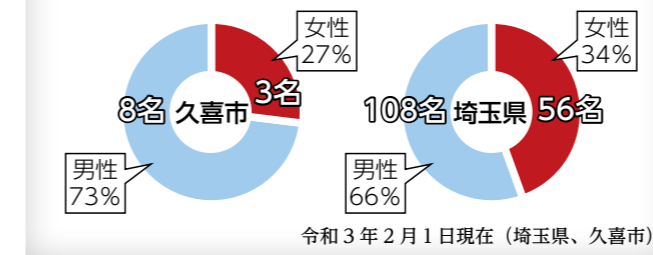


これが安否確認旗です

自主防災会長
おくざわ やすへい
奥澤 保平さん

副ブロック長
ひろせ かずこ
廣瀬 和子さん

自主防災組織リーダー養成指導員の男女割合



令和3年2月1日現在（埼玉県、久喜市）

リーダー養成指導員とは？

指導員は、担当するエリア内の自主防災組織リーダー養成講座の講師の他、県内の防災イベントの際に講演を行うなど、広く啓発活動に取り組んでいます。

指導員の資格を得るには、市の推薦を受け、県が実施する講習会で防災に関する基本的知識のほか、応急手当、心肺蘇生法などの実技、災害図上訓練などの技術を学ばなければなりません。

久喜市では毎年1回、リーダー養成講座を行っていますが、女性参加者は1～2割程度です。もっと女性の参加者が増えて、女性の意見が反映しやすくなると嬉しいです。

また、指導員の仕事以外に、地域のサロンや久喜市の放課後子ども教室（ゆうゆうプラザ）で防災をテーマとした講座を開催する事もあります。埼玉県の『イツモ防災』のリーフレットは大人にも子どもにも分かりやすく、講座で活用しています。受講者に防災の知識を実践してもらえた時が一番嬉しいです。



『イツモ防災』のリーフレット



QRコード

指導員になったきっかけは？

(井出) 市職員として在職中、東日本大震災が発生し、職場に寝泊まりしながら帰宅困難者の対応にあたりました。この経験から、「防災意識」を高めなければならないことを痛感し、久喜市のために貢献したいと活動を始めました。

(笠松) 母がカスリーン台風の被災者で、子どもの頃から災害の恐ろしさを聞いて育ちました。結婚後は、災害時に自分の家族と家をどう守るかという問題を考えるようになり、地域の防災委員を経て指導員になりました。

避難所における男女共同参画

避難所では、集団生活のため不便を感じる方、プライバシー保護の問題などが発生します。避難所では、女性の視点から見た避難所運営や提案の必要性があるため、運営スタッフの半数は出来れば女性に参加してほしいと思っています。また、「調理は女性」などの固定的な役割分担意識や偏見を無くしていくことが大切です。

災害が起これば行政職員も被災者になり、市役所の機能が回復するまでに時間がかかります。皆が被災しているという同じ立場なので、「自助力」を高める必要があります。



かさまつ けいこ
笠松 慶子さん



いで けんじ
井出 健次さん